情報満載、オープンキャンパス

オンライン型、来場型、ハイブリッド開催

本学の入試形態や校風、そして学部・学科の雰囲気を知りたい受験生にとって絶好の機会であるオープンキャンパス。新型コロナウイルスが猛威を振るう現在は、地方出身の受験生にとって、都心にある本学を訪れることは通常以上に困難だ。

そこで、本年度のオープンキャンパスには、来場型とオンライン型の二つのプログラムが用意されている。今年は主にオンラインで開催された。

来場型プログラムでは「キャンパスツアー」や「図書館の見学」などが可能である。決して短くはない大学生活。その大半を過ごすキャンパスの雰囲気をじかに感じることができたはずだ。教職員や学生が参加者の質問に個別で答えてくれる「個別相談コーナー」も用意されている。そのため、入試や入学後の勉強・学生生活などさまざまな疑問・悩みについての回答も得られそうだ。

一方、オンラインプログラムでは、「学科の学び紹介動画」が配信されている。その動画でそれぞれの学科の雰囲気や、学びの様子を実感できる。「入試対策講座」は受験生にとって最も有意義な情報収集源の一つとなったことだろう。その理由は大学の入試問題の解説を人気予備校講師が直々に行っていたからだ。また、大学に足を運ばなくとも、在学生のリアルな声を聞く機会も用意されていた。「学習院大生ホンネVoice」では、在学生の「ホンネ」から本学の学生生活を知ることができる。それを聞けば、憧れの学習院大学へ実際に通う自分の姿もきっと思い浮かぶことだろう。

ご覧の通り、双方のプログラムにはそれぞれたくさんの魅力が詰まっている。可能であれば、両方体験してみることで本学をより深く知ることができるだろう。また、オープンキャンパスの他にも「動画で知る学習院大学」で大学概要・学科カリキュラムを知ることができる。

ワンキャンパスかつ、少人数制が魅力の本学。国際交流、課外活動、そしてキャリア支援の四つのポイントから説明してくれる。他にも、由緒ある学内施設の紹介や多様な入試方式に関する動画が、YouTubeにて公開中だ。なにより5学部17学科、それぞれの学科教職員による紹介動画は、受験生が自分に合った学びを吟味することができる内容となっている。受験生には必見だろう。

来場型は10月上旬から予約受付が開始され、10月23日に開催された。オンライン型は10月11日から11月5日にかけて開催された。

オープンキャンパスは教職員、在学生、そして参加者によって成り立つ特別なイベントである。在学生、参加者を問わず、この機会を存分に知る機会としてみてはいかがだろうか。きっと新しい魅力が見つかるはずだ。

（重野玲生ノエル）

活動の様子

雄大な自然を楽しもう
～キャンピングクラブ～

都会の喧騒を離れ、星々に思いを馳せる、そんな休日はいかがだろうか。空前のキャンプブームだが、準備が足かせとなって始められない人もいるだろう。そのような人にお勧めしたいのが46年続く歴史あるサークル、学習院大学キャンピングクラブである。

晴れて10月より、活動が再開。11月には箱根でキャンプをする予定となっている。来年3月に行う春合宿が本年度最後の活動になるそうだ。

訪れるキャンプ場や観光地はメンバーで話し合って決定するので、企画する楽しさを感じることができる。また、キャンプ場では協力して調理をするので料理のスキルも身につけられる。さらに、仲間とのつながりも深くすることができ、夜に眺める星空とキャンプファイヤーは彼らの心を優しく温めるそうだ。準備段階から実際の活動に至るまで、やりがいを感じられるのも本サークルの魅力の一つだ。

以前は部室で談笑することもあったが、対面活動が困難になり、部員同士の関係が希薄化してしまった。しかし、活動再開にともない、本来のつながりを取り戻しつつある。対面活動が許された今が入部する絶好の機会ではないだろうか。部費が宿泊費以外は不要にもかかわらず、ブランドのキャンプ用品も揃っている。活動日が少なく兼部も推奨しているため、すでに他の団体に所属している学生にもおすすめだ。必要なのは自分用の寝袋と自然界に飛び込む勇気だけだ。

（江刺家けいと）

歴史ある学び舎

伝統のある本学には、長い歴史を持つ建物がいまだ残されている。弊紙第326号では、東別館と南1号館を紹介した。この記事では西1号館と北別館を紹介する。

構内の南側に位置する西1号館。南1号館と同様のネオ・ゴシック様式の外観を持つ、コンクリート造の建物だ。1930年に中等科教場として建設された。現在は語学・演習教室として利用されているが、214教室にはシャンデリアやストーブ置き場など当時のものが現存している。この部屋は設計者である権藤要吉が特に力を注いだ部屋であり、重厚感のある空間だ。

次に紹介するのは、正門の南西部に位置する北別館。目白キャンパス移転後の1909年に竣工した図書館だ。木造平屋建ての端正な佇まいは、当時の歴史を物語っている。当初はT字型の建物であったが、校舎の建設に伴い1978年に北側部分が取り壊されたため、L字型となる。本学の校章である桜の文様が蝶番や床下換気口など各所に施されているため、探してみるのも面白いだろう。現在は一部が大学図書館事務室として使用されている。

建物を通じ、過去の文化や歴史を学ぶことができる。キャンパス内に残る歴史の痕跡をたどってみてはいかがだろうか。

（桑野瑞綺）

西1号館

北別館

訂正

先月号（327号）の1面に掲載した常住紅葉さんの写真説明文の表記に誤りがありました。正しくは文学部英語英米文化学科3年です。以上の通り訂正し、コンテスト関係者の皆さまおよび常住紅葉さんにお詫び申し上げます。

情報特急便

学習院大学史料館　令和3年度秋季特別展「ボンボニエールが紡ぐ物語」

開催期間：9月13日（月）～12月3日（金）
平日12時～15時
場所：北2号館1階　学習院大学史料館展示室
備考：土曜、日曜、祝日閉室
入場無料

明怒浄机

四大学対抗戦。大幅に縮小されたとはいえ、2年ぶりに開催を迎えることができた。本大会に向けて練習を重ねてきた運動部員だけでなく、大会を楽しみにしていたすべての人にとって、念願の開催である。弊社スポーツ面の責任者である私にとっても、実際に会場へ赴き取材ができたことは大変喜ばしいことである。パンデミック後より始まったオンラインでの取材・執筆活動しか経験していなかった私には、とても良い経験となった▼一方で、私は本学学生の一人として、四大戦の開催には反対であった。理由は、本学では授業の半分以上がオンラインであるのに対し、部活動や行事を対面で開催するのは理にかなっていないと感じたからである。大学生活で大事なのはもちろん授業だけではなく、部活動や課外活動、日々のキャンパスでの友人との交流などさまざまだが、この中で最も大事なのは授業だ。対面授業すらあまり実施できていない状況で、運動部のための行事を開催するのはいかがなものか▼ところで本学は、公式には「いくつかのルールのもとに対面授業を実施する」と発表している。オンライン授業を対面授業に変更するには、大抵の場合相当な手続きが必要である。しかし対面授業をオンラインに変更する場合は、授業担当講師が生徒に一言足げるだけで変更可能だ。対面授業を望む学生にとっては不満が残るのではないだろうか。いつまでこの状況が続くのか、不安が募るばかりである▼オンライン授業を強いられ、早1年半。心身ともに疲弊し、施設利用費がどこに消えたのかさえ、もはや気にならなくなった。新型肺炎の感染防止対策としてオンライン授業は仕方のないことだが、絶対にこの状況が長く続いてはならない。本学の対応改善とパンデミック終息を切に願う。（煌）

紙面紹介

2 2年ぶりの競技実施！ 第72回四大戦特集

四大戦とは、毎年秋に本学・成蹊・成城・武蔵の四大学で開催されるスポーツの祭典である。競技の得点は各種目の順位に応じて加算され、総合得点で優勝を争う。1位が4点、2位が3点、3位が2点、4位が1点という原則だ。しかし、ヨット、水泳（一部の競技）、漕艇では武蔵が、ラグビーでは本学が参加せず、実質三大戦となっている。この場合、参加しない大学には、各種目につき1点が加算される。1950年に第1回大会が開催され、72回目を迎える本大会は成城大学で開催を迎えた。本大会は2019年に続き優勝を狙う大会であった。

学習院大学新聞
発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588 東京都豊島区目白1丁目5番1号
黎明会館316号室
発行・編集人　野沢 竜太
年間500円

BOOKS KINOKUNIYA
紀伊國屋書店
学習院大学ブックセンター
2019.10.01
GRAND OPEN
☎03-5953-4420

学習院大学新聞社
@gakushuinpress

学習院 研究最前線

学問研究の「いま」

コロナ禍を国際経済学はどう捉えるか
経済学部経済学科　椋 寛 教授

PROFILE
横浜国立大学経済学部経済学科卒業。東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学後、博士（経済学・東京大学）取得。その後日本技術振興会特別研究員（PD）を経て2003年より本学に赴任。

◇　◇　◇

椋先生は国際経済学を専攻し、国際貿易、直接投資、貿易協定を専門分野として研究をしてきた。今回は海外直接投資や国際経済学の魅力などに焦点を当て、お話を伺った。

（取材・構成　吉越友香）

研究の内容と展望

国際経済学の研究を行うきっかけは大学の先生からの勧めだったという椋先生。国際貿易や海外直接投資を通して多くの国が繋がりながら、各国の政策への影響を分析する重要な分野であることを知り、研究にのめり込んだそうだ。

海外直接投資とは、企業が外国に拠点を設け、現地で活動することを目的に実施する投資のことである。

経済学で人生を豊かに

先生は研究で、企業が海外拠点を通じて法人税逃れをする移転価格の問題に注目し、その貿易政策との関係について分析を行っている。

コロナ禍での経済の変動に関して国際経済学の分析が貢献できることは多数あり、先生はこのことに関しての論文を執筆したそうだ。国際経済学はこれまで国際分業のメリットを強調してきた。しかし、今後はこうした大きなショックに対し、強靭な国際経済体制の構築が重要視されるだろうと先生は話す。

国際経済学を学ぶ意義

「輸出は善で輸入は悪である」など、国際経済に関する認識には誤解が多い。国際経済学を学ぶことで、国家間の経済関係や国際貿易、海外直接投資の長所・短所を冷静に判断できるようになるという。また、国や人々に違いがあるからこそ、協力が互いの利益をもたらすとする国際経済学の教えは、日常生活にも役立てることができるそうだ。詳しくは国際経済学の基本的な考え方を説明した先生の著書『自由貿易はなぜ必要なのか』を読んでもらいたい。

研究の原動力

国際学会での報告や論文の出版を通じ、世界中の人々と交流・議論できる環境は研究の原動力となっているそうだ。また、研究内容を世に広めることにより、国際経済問題の解決に貢献したいという思いが、研究を続ける椋先生の動機になっているという。

学生へのメッセージ

「経済学は、人にやさしい学問です。経済学を学ぶことは、さまざまな経済問題を理解することに役立ちます。また、物事を客観的に分析し冷静な判断を行うための訓練となるので、この学問は人生をより豊かにすることにも繋がります。講義内容と自分自身とのかかわりを意識しつつ、経済学を学ぶ機会を最大限に活かしてください。」

100th
OUYUKAI Anniversary
学習院同窓会桜友会は、設立100周年を迎えました。
前へ。次へ。その先へ。
一般社団法人学習院桜友会は、学校法人学習院を構成する、大学（大学院含む）、女子大学、高等科・中等科、女子高等科・中等科、初等科、幼稚園、8校共通の同窓会組織です。学習院で学んだ全員が会員で、現在その数は国内外80支部14万人を数えます。
設立は大正10年（1921）、今年1月に100周年を迎えました。
卒業生の懇親の組織であることは勿論、課外活動のサポートや就職支援などを通じて、皆さんの学生生活と深く関わっています。私たちと一緒に新たな学習院の歴史を作っていきましょう。
學習院櫻友會
〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 学習院百周年記念会館内　TEL. 03-3988-3288　FAX. 03-3988-3853
https://www.gakushuin-ouyukai.jp/info/

第72回 四大戦 惜しくも2位

Gakushuin Sports

開会式での選手宣誓（撮影・吉岡佐和子）

2年越しの開催

昨年は新型コロナウイルスの影響で競技実施が見送られた四大戦。実質2年ぶりの本大会は、参加人数や競技を大幅に縮小しての開催となった。本年は10月22日から同月24日にかけ、成城大学（水泳のみ成蹊大学）で開かれた。

大会期間中は、バドミントン・水泳・駅伝の競技種目で選手たちは熱い闘志を燃やした。

【22日　澤柳記念講堂】

午前9時。悪天候のなか、開会式の幕が上がった。開会宣言に始まり、大会会長をはじめ大会関係者らの挨拶が行われた。引き続き行われたエール交換では、各大学の応援団がそれぞれの大学へ声援を送り合い、大会の士気が高まった。

本大会のスローガンは「Four U For U」だ。「四大学とあなたのために」、「あなたのための四大学」というメッセージが込められている。このスローガンの通り、四大学と選手が一体となって大会を盛り上げた。

王座奪還への期待

総合得点は、本学が60・5点、成蹊が63・5点、武蔵が37点となった。選手たちは大健闘するも、本学は僅差で成蹊に及ばず、優勝を逃す結果となった。来年度は本学での開催となる四大戦。優勝杯を獲得すべく、王座奪還に向け選手たちの熱い闘志は燃え続ける。（桑原鈴）

極寒での決戦

バタフライを泳ぐ名波選手（撮影・小関圭祐）

水泳部

【22日　成蹊大学プール】

当日は気温が低く、雨も降っていたため、会場の成蹊の屋外プールと相まって厳しい寒さに。しかしレースは白熱したものになり、寒さを吹き飛ばす熱気に包まれた。

今回の大会は、自由形や背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの4種目に加え、個人メドレーやフリーリレーでタイムを競い合う。どのレースも選手たちが全力でぶつかり合い、仲間たちの声援も多く聞こえ、盛り上がりをみせた。観客を魅了したのは、バタフライに出場した名波颯一郎選手（政2）。スピードと躍動感がある彼の泳ぎに、誰もが引き込まれた。特に白熱したのは、男子200メートルフリーリレーだ。第1泳者の山田頼旺選手（済1）は、レース開始前に緊張した様子を見せていたが、接戦を繰り広げる。その後、名波選手と高橋志苑選手（済3）にかけて2位を維持。1位を追いかける形でアンカーの菅原啓選手（哲2）に託される。最後、菅原選手が追い上げを見せ、見事1位をつかんだ。最終結果は、成蹊が1位、本学が2位であった。

試合後の選手交流

レース終了後、それぞれの大学が互いを労い、対戦相手との健闘を讃えあう。その様子は他大学のライバル同士だということを感じさせず、まるで今までずっと時間を共有してきた親友同士に思えるほど温かいものであった。そんな和やかな空気を、プールと外の温度差でできた神秘的な湯気が優しく包み、熱い戦いは幕を閉じた。

今回の結果について菅原選手は、「ラスト種目では、残った力を振り絞り、最後に追い抜くことができました。みんなで1位を獲得できて嬉しいです」と喜びの言葉を述べていた。また、今回の大会は悪条件が重なる試合環境だったため、本来の実力を出し切れない選手が多かったという。次の試合に向けては、練習をさらに重ねていきたいという意気込みを語ってくれた。この気持ちを胸に、これからも多くの選手たちがさまざまな場面で活躍するだろう。（小関圭祐）

快進撃で見事優勝

男子バドミントン部（撮影・吉岡佐和子）

【22・23日　大学体育館】

選手の掛け声と、シューズの音が鳴り響く大学体育館。無観客ながらも、選手たちの熱い戦いによって会場は活気で溢れていた。

バドミントンは、各大学とシングルス3試合、ダブルス2試合を行い、勝った試合数で争う総当たり形式で行われた。その中でも男子は2日間にわたって熱戦を繰り広げ、順調に勝利を重ねていった本学は見事優勝に輝いた。

最強のペア

優勝に大きく貢献したペアの存在があった。それが、清水翔音選手（営2）と長谷部凌選手（営2）である。息の合ったプレーを見せ、ダブルス全勝という凄まじい結果を収めた2人。直後のインタビューで試合中に意識したことを尋ねると、「前に出ることと、攻める気持ちを忘れないことです」と語る。また、「この2人で組んできたなかで、一番楽しいダブルスができました」と晴れやかに語った。

2人はシングルスでも素晴らしい活躍を見せ、清水選手はシングルスでも全勝という「最強」の活躍ぶり。しかも全試合ストレートで勝利しており、「向かうところ敵なし」といった状態であった。長谷部選手は、対武蔵の1試合のみ敗北を喫したが、その他ではすべて勝利した。残念ながら敗北してしまったこの試合もかなりの接戦であり、両者の「勝利に対する強い思い」が終始見えた。ファイナルゲームまでもつれ込み、両者は一進一退の攻防を繰り広げ、手に汗を握る展開が続いた。相手のマッチポイントを奪い合った結果、24対26で武蔵が勝利し、長谷部選手は惜しくも敗北となった。

また、この試合中に部員たちの声掛けはさらに積極性を増し、「大丈夫、大丈夫」と呼び掛ける姿には、チームの強い団結力が感じられた。雰囲気の良さを感じる本学の声掛けは、四大学の中でも際立っており、大会を盛り上げていた。

有終の美

その他、水上周哉選手（政4）、橋本拓海選手（教3）、向山侑甫選手（済2）、鞍崎莉生選手（英1）が出場し、優勝に貢献した。向山選手は、シングルスの2試合で勝利を収め、橋本選手と共に出場したダブルスでは武蔵に快勝した。

注目は、本大会をもって引退する水上選手。シングルスでは惜敗したが、鞍崎選手と共に出場したダブルスでは成蹊相手にファストゲームを21対3で先取。続くセカンドゲームでも21対10と圧倒的な力を見せつけ、ストレート勝ちを収めた。水上選手は「靭帯の怪我で試合復帰できるとは思っていませんでしたが、最後に出場できました。試合内容は良くなくとも、大変思い出深い試合となりました」と語った。

試合後には、部員たちが引退する水上選手を胴上げで祝福する姿が。思いを受け継ぐ部員たちは、来年どんな活躍を見せてくれるだろうか。（北村優衣）

スマッシュを決める清水選手（撮影・吉岡佐和子）

男子駅伝 一走入魂

（撮影・吉岡佐和子）

女子駅伝

写真提供：運動部常任委員会

【24日　第1グラウンド】

本競技では1周980メートルのコースを、女子は1人当たり3周、男子は6周走る。チームは4人1組で、男女それぞれAとBの2チームが出場。本学女子Aチームは浅見姫花選手（女日1）、石島楓子選手（国1）、浜野心花選手（哲1）、粕谷茅花選手（国2）。女子Bチームは野口凛花選手（国1）、宮本瑛奈選手（英1）、飯岡桜子選手（哲1）、中村智穂選手（国1）。男子Aチームは飯田拓真選手（政3）、大友拓人選手（数4）、白鳥優貴選手（物4）、柳翔太選手（国2）。男子Bチームは日野賢之選手（教1）、本城大暉選手（済1）、鈴木優作選手（営2）、宇賀瑞希選手（英1）が出場した。

一心につなぐ襷

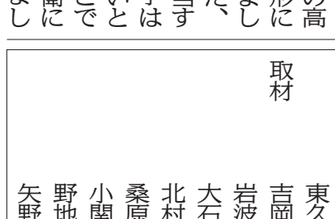
応援合戦の熱気をそのままに、女子の競技が開始。時折笑顔を見せつつ走り続けるが、真っ直ぐ前を見つめる眼差しは真剣そのものだ。周回を重ねるごとに滴る汗や危うく外れ落ちそうになるゼッケンに、彼女たちの努力が窺える。途中Aチームが成蹊の2チームと並走し、手に汗を握る展開となった。競技開始から約1時間、Aチームは3位、Bチームは5位でゴール。

続いて男子の部が開始。好調な滑り出しを見せたAチームはそのまま独走。彼らが応援席前に姿を見せるたび、観客はその速さに驚きの声を上げる。その後ペースを落とすことなく、2位の武蔵に大差をつけゴールテープを切った。Bチームも健闘し、中盤は7位であったが、最終走者の回で6位に浮上。ゴールまでその順位を守った。何人かの選手は全力を尽くした末に思わず倒れこむ。文字通り全身全霊で挑む彼らの姿に、応援団の熱気も最高潮。身を乗り出すほどの勢いで選手にエールを送った。スタート前半、全チームがルに到着した。

自分らしい走りで

競技終了後、Aチームのアンカーとして活躍した柳選手はこう語る。「全員が力を出し切って、後悔のないように走ることを目標にしていました。前半から攻めの走りができて良かった」また、同じAチームの飯田選手は、「自分のペースを保つという目標を達成し、楽しんで走れました。来年本学で開催する大会でもチームに貢献したいです」と語った。

話を聞かせてくれた2選手も含め、選手たちの表情は達成感に満ち溢れる。彼らが作り出す爽やかな雰囲気の中、大会の終了が宣言された。（大石瑛奈）


1位でゴールする柳選手（撮影・吉岡佐和子）

食らいつけ！女子バドミントン部

息の合ったプレーを見せる池田選手と高田選手（撮影・野地百華）

【22・23日　大学体育館】

本大会では、シングルス3試合、ダブルス2試合を行い、勝った試合数で競う総当たり戦で順位を決する。また、武蔵は部員数が不足していたため出場せず、三大学で戦うこととなった。本学からは川畑麗奈選手（政4）、藤原有希選手（法4）、池田梨瑚選手（法3）、高田朋奈選手（済2）、大内琴子選手（国2）の6人が出場した。

今回はその中から、池田選手、高田選手、大内選手にお話を伺った。

再び一丸となって

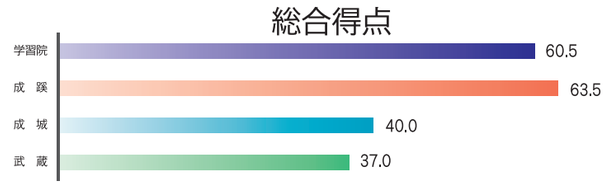
まずチームの目標としては、格上である成蹊・成城に対して当たり負けせず、どう食らいついていくかを念頭に置いていたという。また高田選手は個人の目標として「コロナ禍であまり練習ができなかったり、私のモチベーションも下がってしまう時がありましたが、皆で一丸となって、もう一度頑張ろう、という雰囲気のおかげで私も試合に勝って貢献したいと思いました」と話してくれた。四大戦に向けては、練習日程を合わせることに苦心しながらも、出場選手の選定を目的とした部内戦を中心に、実戦形式で練習を行ってきたという。また、それぞれが明確な戦略を練っており、池田選手と高田選手は「後衛の池田がスマッシュで相手を崩し、前衛の高田のプッシュで決める形に持ち込めるよう意識しました」と振り返った。また、ダブルスでは前衛を担当することが多い大内選手は「前衛で触っていかないと点が取れないので、そこでゲームメイクをして後衛に決めさせるようにしました」と語っている。

非常に激しい打ち合いが繰り広げられたが、相手に及ばず本学は惜しくも3位に終わった。

しかし閉会式終了後は、チーム全体で和気あいあいと集合写真を撮る姿が。引退する4年生を含め、部員全員が晴れやかな表情で互いを労った。体制を新たにしたバドミントン部の躍進も、非常に楽しみである。（野地百華）

構成・レイアウト　吉岡佐和子　東久保海仁
取材　吉岡佐和子　岩波快成　大石瑛奈　北村優衣　桑原鈴　小関圭祐　野地百華　矢野杏佳

総合得点



学習院大学新聞社では
新聞広告を担当する部署・広告部で
活動してもらえる方を募集中！！

主な業務内容
１．広告枠の提供
２．広告主様から頂いた
　　広告データのチェック
３．広告の自作（例えばこの広告）

広告部員募集

＜対象＞
令和３年度現在で本学学部１年生の方
＜連絡先＞
gakushuinpress@hotmail.com

SNSも見てね★
SHINBUN_GU
Instagram
Twitter